

グループ名 ・代表者名	世界核被害者フォーラム実行委員会 沢田 正	助成金額	70 万円
連絡先など	haruko.jpn@gmail.com		
助成のテーマ	広島・長崎被爆70周年 核のない未来を！世界核被害者フォーラム		

【調査研究・研修の概要】

- ・広島と長崎の反核市民団体が連帯して実行委員会を結成し、準備におよそ2年をかけ、2015年11月21日から23日まで、『広島・長崎被爆70周年 核のない未来を！世界核被害者フォーラム』の広島開催を実現した。
- ・参加者は3日間で延べ16か国1,115名となった。
- ・世界50カ所に及ぶ核被害の状況を伝えるドイツ IPPNW 原作の「世界のヒバクシャポスター展」を翻訳し、会場で展示し、116ページの翻訳冊子としても刊行した。
- ・被爆しない権利、生きる権利、等しく救済されるべき権利のために「広島宣言 世界核被害者人権憲章」を採択し、「核と人類は共存できない」ことを世界に宣言した。

【調査研究・研修の経過】

- ・2015年5月23日：【第3回プレ企画開催】講演：浦田賢治さん（早稲田大学名誉教授）、テーマ：＜戦後70年、ヒロシマ・ナガサキを捉え直す——「グローバル・ヒバクシャ」の視点から読む国際法と日本国憲法＞
- ・2015年8月6日：【第4回プレ企画開催】シンポジウム「2015国際対話集会反核のタベヒロシマ」、テーマ：＜世界核被害者フォーラムで何を指すか～核被害の原点から～＞
- ・2015年10月16日：【第5回プレ企画開催】イレーヌ・スキヤリー ハーバード大教授講演会、講演テーマ＜民主主義と核兵器は共存できない＞
- ・2015年11月21日～23日：世界核被害者フォーラム開催
- ・2016年2月20日：【ポスト共同企画開催】シンポジウム「核と人類—フクシマ後に考える」、講師：アーニー・ガンダーセン、メアリー・オルソン、スティヴ・リーパー
- ・2016年2月22日：【ポスト共同企画開催】ヴラディーミル・チェルトコフ監督講演及び「真実はどこに？」上映会＜チェルノブイリとフクシマ 国際原子力機関の犯罪を告発する！＞
- ・2016年3月23日：【ポスト共同企画開催】イラク湾岸戦争25周年イラク・シリア写真展及びシンポジウム＜劣化ウラン被害と現況を考える＞

【今後の展望など】

- ・世界核被害者フォーラムについての報告集を作成、刊行する。3日間の37人によるプレゼンテーションと討論の全容を収録すべく、現在取り組み中。報告集は2016年11月を目途に出版する。
- ・「世界核被害者ネットワーク・プロジェクト（仮称）」として新たに事務局体制を編成し国際メーリングリスト、情報共通フォルダの設置などに取り組んでいく。
- ・当面はフォーラムの成果と各地からの新たな情報を集約・蓄積するファイル共有フォルダのオンラインサービスを導入し、情報センターの役割ができるようにする。

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	海外からの招聘者旅費滞在費16人、国内からの招聘者旅費滞在費4人分、国内ゲスト滞在費23人	4,163	400	100	3,663
資料費	資料、プログラム、世界のヒバクシャポスター展等	505			505
機材・備品費	会議場付属設備・同通機器借料等	1,087	100	10	977
会議費	会場費（プレフォーラム5回・フォーラム会場）	1,204	200	50	954
印刷費	広報用ほか印刷	697		40	657
協力者謝礼など	夜間会議通訳・翻訳	80			80
外部委託費	フォーラム基調講演者謝礼・旅費滞在費（国内外各1）、プレフォーラム講師謝礼・旅費5回	350			350
人件費	同時通訳（4人体制（通訳料、旅費、滞在費））+ロシア語通訳	1,404			1,404
運営経費	通信料、封筒文具、タグ、記録用テープ・カード、花輪など	376			376
その他	ゲスト用等飲料など	24			24
合 計		9,890	700	200	8,990

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・「世界核被害者フォーラム」 <http://www.fwrs.info/>
- ・IPPNW(核戦争防止国際医師会議)ポスター展『世界のヒバクシャ』2015年11月21日発行

ヒロシマから世界へ 届けよう核被害者の声を!

広島・長崎 核のない未来を! 被爆70周年 世界核被害者フォーラム

Towards a Nuclear Free Future! The World Nuclear Victims' Forum

(広島：2015年11月21日-11月23日 広島国際会議場ヒマワリ)

主催：世界核被害者フォーラム実行委員会



5回のプレ企画開催

- 2014.5.18 世界核被害者フォーラム実行委員会発足集会
 - 核兵器廃絶をめざすヒロシマの会、ICBUW-Japan、核兵器廃絶地球市民集会長崎実行委員会から出た3人が共同代表
- 2014.8.6 第1回プレ企画 国際シンポ：8・6ヒロシマ反核のタベ2014
世界の核被害の実態に学ぶ～核サイクルを断ち切るために
- 2015.3.8 第2回プレ企画 470人参加
講演：京都大学原子炉実験所 小出裕章さん
テーマ「福島原発事故から4年～核による非人道的被害を問う」
- 2015.5.23 第3回プレ企画 核被害の非人道性を法的に問う 70人参加
講演：浦田賢治さん(早稲田大学名誉教授)
講演テーマ：<戦後70年、ヒロシマ・ナカザキを捉え直す「クローバル・ヒハゲシヤ」の視点から読む国際法と日本国憲法
- 2015.8.6 第4回プレ企画 シンポ「2015国際対話集会反核のタベヒロシマ」 120人
テーマ：世界核被害者フォーラムで何を指すか～核被害の原点から
基調講演・今中哲二 京都大原子炉実験所助教 演題：『広島・長崎、チェルノブイリ、福島原発の被曝調査から 科学の限界と研究者の役割』
- 2015.10.16 第5回プレ企画 イレーヌ・スキヤリー ハーバード大教授講演会
講演：「民主主義と核兵器は共存できない」
DEMOCRACY AND NUCLEAR WEAPONS CANNOT CO-EXIST
- 2015.11.21～23 世界核被害者フォーラム開催

2014 8.6ヒロシマ国際対話集会～「反核のタベ」 8月6日(水) 15:00～18:00

広島市まちづくり市民交流プラザ6F：マルチメディアスタジオ
(広島市中区保町6-36 広電宇品線電停「保町」(木通り)下車徒歩5分)
資料代 700円 学生無料

●シンポジウム 世界の核被害の実態に学ぶ ～核サイクルを断ち切るために～

核「軍事利用」と核「平和利用」が表裏一体となって押し進められてきた核利用サイクルの破綻は、福島第一原発事故がもたらした現実によって明らかになりました。ウラン採掘、核兵器、原発、劣化ウラン兵器など核利用のサイクルによりもたらされている非人道的被害の実態に学び、あらためて「核と人類は共存できない」ことを確認しましょう。安倍政権は、収束のめどのない福島核汚染を、原発の再稼働・海外への原発輸出、核兵器保有の意図をもった使用済み核燃料再処理によるプルトニウムの蓄積など核利用サイクル政策を推進しています。現実の厳しく厳しい立ち向かい得る教訓と力を蓄えましょう。核利用のサイクルを断ち切るべく国際的な被害者のネットワークを築くため、広島・長崎被爆70周年になる2015年には「核のない未来を！世界核被害者フォーラム」の広島開催をめぐっています。本シンポジウムは、そのためのプレ・フォーラムとして、核被害の実態を知り、手を携えてその根絶への道を探しましょう。

パネリスト

- 平岡 敬さん
元広島市長、HANWA顧問、世界核被害者フォーラム実行委員会顧問
- 京藤尚三さん
広島県議、HANWA運営委員、世界核被害者フォーラム実行委員会委員
- 橋 柳子さん
福島県核事故被災者、浪江町より東京市に避難生活中、元中学校教員
- 小椋智穂さん
第1号被爆者早稲田大、国際被爆者大会、メキシコ・チャコティ会議で被爆者代表
- アメリカ・ウラン鉱山被害者(衝面中)
HANWA共同代表、世界核被害者フォーラム実行委員会事務局
- コーディネーター 森藤君子さん
HANWA共同代表、世界核被害者フォーラム実行委員会事務局
- 著者の反核活動～核兵器禁止条約に向けての国際的な場での活動
- アメリカ・ウラン鉱山被害者の現状

主催：世界核被害者フォーラム実行委員会・ICBUW-Japan・核兵器廃絶をめざすヒロシマの会
連絡先：090-9064-4705(森藤)



講演 小出 裕章さん(京都大学原子炉実験所助教)

「無残としか言いようがない現実がある。あったことを終ったことにするつもりか。あったことをなかったことにするつもりか。おなじことをくりかえすために。いまあることをなかったことにできるのか。一福島第1原発から25%の地に住む詩人若松丈太郎さんの最新作の節を。事故から3年半、今も放射能の放出と汚染水の流出が止まらず、福島県民の12万5千人が避難生活を強いられ、原発事故関連死者数が震災の直接死者数を越えて増え続けています。そうした中で進められる原発の再稼働や海外への輸出第一詩人の思いに共感する人が多いのではないのでしょうか。

2015年、広島、長崎への原爆投下から70年を迎えます。東西冷戦の終結から四半世紀近い今も、米口を中心に世界に1万発を超える核兵器が使用可能状態にあり、人類の生存を脅かしています。高齢化した被爆者に残された時間が限られる中、全人類的課題である核兵器廃絶の道筋をどう切り拓いていくかが問われています。

研究者として半世紀近く核問題に取り組みながら来られた小出裕章さんは「核と原子力は同じものであり、原子力発電を進めながら核兵器廃絶はできない。核兵器をなくすためには世界中の核の被害者と手をたぐ必要がある」と訴えてこられました。核兵器も原発も工場の探掘であり、ウランの採掘から、精錬、濃縮、原発運転、再処理=プルトニウム(兵器・核燃料両用)製造、核実験、劣化ウラン兵器製造・使用、廃棄物処分までのすべての過程で放射能汚染と被曝が避けられません。被爆70年を迎えるにあたり、核のない世界をどう実現するか、小出さんとともに考えましょう。

日程 2015年3月8日(日)
時間 午後1時半～4時半
開場：午後2時
場所 世界平和記念聖堂
広島市中区紙町4-42
参加費 500円



小出 裕章 こいでひろあき
1949年東京生まれ。
東北大学工学部原子核工学科卒、同大学院修士。京都大学原子炉実験所助教、専攻は放射線物理、原子力安全。
学生時代に東北電力女川原発反対集会に参加してから反原発の道を進む。
伊丹野風記念堂に所属。
著書に「原子力のウソ」(2011年秋葉社)「隠される原子力 核の真実」(2010年前衛社)、「原子力と共存できるか」(共著、1997年ちくま出版)など多数。

主催：世界核被害者フォーラム実行委員会

事務局 〒731-5135 広島市佐伯区海老園3-2-18 NO.DU ヒロシマ・プロジェクト546付

参加者

3日間で16カ国延べ1115人

招聘者

海外 9カ国17人

福島 3人

登壇者 56人



9

招聘者

1) ティルマン・ラフ Tilman Alfred Ruff ICAN議長/ IPPNW共同代表	オーストラリア
2) 沈鎮泰(シム・ジンテ) Sim Jintae 広島被爆者・在韓被爆者 韓国原爆被害者協会陝川支部長	韓国
3) ペトゥーチ・ギルバート Petuache Gilbert 米ウラン鉱山先住民	アメリカ
4) メアリー・ディクソン Mary Dickson 米: ネバダ核実験ダウン・ウィンダース	アメリカ
5) アンエリス・ルアレン Ann-clise Lcwalken カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校	アメリカ
6) アニワル・トフテイ Enver Tohti ウイグル自治区出身 ロブノール・プロジェクト	イギリス
7) シュリプラカッシュ Shuripurakash インド・ジャドゴダ「ブダの嘆き」監督	インド
8) アシッシュ・ビルリ Ashish Birulee ジャドゴダ・ウラン鉱山・放射能反対同盟	インド
9) クマール・スングラム Kumar Sundaram インド核軍縮平和連合 (CNDP)	インド
10) ジャワッド・アルーアリ医師 Dr.Jawad Al-Aji	イラク
11) カリーム・アブドゥルサダ・アブドゥ・アーメド医師 Dr. Kareem Abdulsada Abd Ahmed	イラク
12) マンフレート・モーア Manfred Mohr ICBUW 運営委員 ドイツ弁護士	ドイツ
13) アントン・ブドビチェンコ Anton Vdovichenko ロシア・チェルノブイリ原発事故被害支援NGO・ラディミチ	ロシア
14) アレクサンダー・ベリキン Alexander Velikin リクビダートル	ロシア
15) アナトーリ・チュマク Anatoli Chumak ウクライナ・チェルノブイリ25年国家報告書作成責任者	ウクライナ
16) カリナ・レスター Karina Lester Australian Nuclear Free Alliance 南オーストラリア州ククサムラ族 英核実験被害者	オーストラリア
17) 姜濟淑(カン・ジェスク)	韓国
福島から	
1) 長谷川健一(福島原発事故被害者団体連絡会共同代表)	
2) 井戸川克隆(前福島県双葉町長)	
3) 武藤類子(福島原発告訴団団長)	

10

【同時開催】

会場: 国際会議場・ヒマワリ

- ポスター展: 世界のヒバクシャ
- インド・ジャドゴダ・ウラン鉱山被害写真展

11

ポスター展: 世界のヒバクシャ

IPPNW (核戦争防止国際医師会議) ポスター展

世界のヒバクシャ
- Hibakusha Worldwide -



広島・長崎被爆70周年 核のない未来を!
世界核被害者フォーラム
2015年11月21-23日 広島国際会議場

12

ポスター展日本語訳冊子発行



世界の核被害50カ所を調査報告

目次	
ポスター展「世界のヒバクシャ」報告に当たって	1
本報告について	2
1. オーストラリア (オーストラリア) Orange Dam (オランダ国)	4
2. アメリカ合衆国 (オーストラリア) Radom Hill (オランダ国)	6
3. トンガ王国 (オーストラリア) Raopu (オランダ国)	10
4. ニュージーランド (オーストラリア) Rites Lake (オランダ国)	12
5. 南米チリ (オーストラリア) Selenkovera (オランダ国)	14
6. 南米チリ (オーストラリア) Tavelike (オランダ国)	16
7. 南米チリ (オーストラリア) Jachyno (オランダ国)	18
8. 南米チリ (オーストラリア) Mazona (オランダ国)	20
9. 南米チリ (オーストラリア) Mazona (オランダ国)	22
10. 南米チリ (オーストラリア) Aduque (オランダ国)	24
11. 南米チリ (オーストラリア) Molucan (オランダ国)	26
12. 南米チリ (オーストラリア) Rosing (オランダ国)	28
13. 南米チリ (オーストラリア) Adu & Aduca (オランダ国)	30
14. 南米チリ (オーストラリア) Witsmond (オランダ国)	32
15. 南米チリ (オーストラリア) Black Hills/Valle (オランダ国)	34
16. 南米チリ (オーストラリア) Chalk Rock/Killwood (オランダ国)	36
17. 南米チリ (オーストラリア) Siquel/El Bar (オランダ国)	38
18. 南米チリ (オーストラリア) Spoken Recreation (オランダ国)	40
19. 南米チリ (オーストラリア) Kama (オランダ国)	42
20. 南米チリ (オーストラリア) La Hague (オランダ国)	44
21. 南米チリ (オーストラリア) Karaman (オランダ国)	46
22. 南米チリ (オーストラリア) Marek (オランダ国)	48
23. 南米チリ (オーストラリア) Bank Dvovak (オランダ国)	50
24. 南米チリ (オーストラリア) Wadwood (オーストラリア) Wadwood/Schickel (オランダ国)	52
25. 南米チリ (オーストラリア) Huelat (オランダ国)	54
26. 南米チリ (オーストラリア) Gidisa (オランダ国)	56
27. 南米チリ (オーストラリア) Sapek & Wate Bar (オランダ国)	58
28. 南米チリ (オーストラリア) Palomares (オランダ国)	60
29. 南米チリ (オーストラリア) Chendel (オランダ国)	62
30. 南米チリ (オーストラリア) Three Mile Island (オランダ国)	64
31. 南米チリ (オーストラリア) In Ektor (オランダ国)	66
32. 南米チリ (オーストラリア) Rague (オランダ国)	68
33. 南米チリ (オーストラリア) One Point (オランダ国)	70
34. 南米チリ (オーストラリア) Mavilak (オランダ国)	72
35. 南米チリ (オーストラリア) Log Nor (オランダ国)	74
36. 南米チリ (オーストラリア) Ferganah and Mazona (オランダ国)	76
37. 南米チリ (オーストラリア) Nampalakov (オランダ国)	78
38. 南米チリ (オーストラリア) Karaman and Molucan (オランダ国)	80
39. 南米チリ (オーストラリア) Rites & Ewosak/Adia (オランダ国)	82
40. 南米チリ (オーストラリア) Mazona/Adia (オランダ国)	84
41. 南米チリ (オーストラリア) Mazona (オランダ国)	86
42. 南米チリ (オーストラリア) Jachyno (オランダ国)	88
43. 南米チリ (オーストラリア) Mazona/Adia (オランダ国)	90
44. 南米チリ (オーストラリア) Chalk Bay (オランダ国)	92
45. 南米チリ (オーストラリア) Thak (オランダ国)	94
46. 南米チリ (オーストラリア) Palomares (オランダ国)	96
47. 南米チリ (オーストラリア) Rague (オランダ国)	98
48. 南米チリ (オーストラリア) Ferganah (オランダ国)	100
49. 南米チリ (オーストラリア) Mazona (オランダ国)	102
50. 南米チリ (オーストラリア) Sapek (オランダ国)	104
索引	106
世界核被害者フォーラム・プログラム	110
本報告の編者名	112

ポスター展 オリンピックダム・ウラン 鉱山

1. オリンピックダム (オーストラリア)

オーストラリアのウラン産出量は、世界のウラン産出量の約40%を占めています。オリンピックダムは、オーストラリア最大のウラン鉱山です。この鉱山は、1980年代後半から1990年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。この急増は、主に中国とインドのウラン需要の増加によるもので、中国は2000年代後半から2010年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。この急増は、主に中国とインドのウラン需要の増加によるもので、中国は2000年代後半から2010年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。

概要

オリンピックダムは、オーストラリア最大のウラン鉱山です。この鉱山は、1980年代後半から1990年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。この急増は、主に中国とインドのウラン需要の増加によるもので、中国は2000年代後半から2010年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。

背景

オリンピックダムは、オーストラリア最大のウラン鉱山です。この鉱山は、1980年代後半から1990年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。この急増は、主に中国とインドのウラン需要の増加によるもので、中国は2000年代後半から2010年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。

課題

オリンピックダムは、オーストラリア最大のウラン鉱山です。この鉱山は、1980年代後半から1990年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。この急増は、主に中国とインドのウラン需要の増加によるもので、中国は2000年代後半から2010年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。

課題

オリンピックダムは、オーストラリア最大のウラン鉱山です。この鉱山は、1980年代後半から1990年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。この急増は、主に中国とインドのウラン需要の増加によるもので、中国は2000年代後半から2010年代前半にかけて、ウラン産出量の急増を遂げました。

第1日 2015年11月21日(土) 広島国際会議場ヒマワリ

10:00～11:45 開会セッション

- 開会の言葉: 青木克明(世界核被害者フォーラム実行委員会共同代表)
- 歓迎の挨拶: 平岡敬(元広島市長/世界核被害者フォーラム実行委員会顧問)
- 基調提案 : 森瀧春子(世界核被害者フォーラム実行委員会事務局長)
- 基調講演 : ティルマン・ラフ(ICAN 議長=創始者/IPPNW共同代表)
- 演題: ウィキャン 健全な持続可能な未来は核なしで初めて可能だ
- 特別報告: 内藤淑子(広島被爆者/ノーモアヒバクシャ訴訟広島原告団長)

17

セッション-1

核サイクル被害現場からの報告

18

12:45～13:45 【1】ウラン採掘

- スピーカー
ペトーチ・ギルバート(米ウラン鉱山先住民族)
アシッシ・ビルリ(インド・ジャドゴダ・ウラン鉱山/放射能反対同盟)

19

13:50～15:20 【2】核実験

- スピーカー
メアリー・ディクソン(米ダウン・ウィンダース)
カリナ・レスター(南オーストラリア州/ククサムラ族/英核実験被害者)
アニワル・トフティ(中国核実験被害者)
竹峰 誠一郎(マーシャル諸島における米核実験被害の研究者)

20

15:25～16:25 【3】広島・長崎原爆被爆

- スピーカー
高東征二(「黒い雨」集団訴訟原告)
築城昭平(2013年長崎平和記念式典で「被爆者の誓い」)
沈鎮泰(韓国原爆被害者協会 陝川支部長)

21

16:40～18:20 【4】原発事故／原発労働(チェルノブイリ・福島)

- スピーカー
アレキサンダー・ヴェリキン(ロシア・リクビダートル)
アントン・ウドヴィチェンコ(ロシア・チェルノブイリ原発事故被害支援NGOラディミチ代表)
長谷川健一(福島原発事故被害者団体連絡会共同代表)
コメンテーター: 井戸川克隆(前福島県双葉町長)

22

18:25～19:25【5】核廃棄物利用・劣化ウラン兵器

- スピーカー
伴英幸(原子力資料情報室共同代表)
ジャワッド・アルーアリ(医師／イラク保健省がん医療顧問)
カリーム・アブドゥルサダ・アブドゥ・アーメド(医師／イラク・バスラがん予防センター長)

23

第2日 11月22日(日)

広島国際会議場・ヒマワリ

24

9:00～11:00 セッション2 ヒバクに関する科学

- スピーカー
朝長万左男(長崎原爆病院名誉院長)
アナトリー・チュマク(ウクライナ国立放射線医学研究センター副所長)
床次眞司(弘前大教授・弘前大学被ばく医療総合研究所)
星正治(広島大名誉教授)
コメンテーター:松井英介(岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所長)

25

11:10～12:20 特別セッション

- 基調講演 小出裕章(元京都大学原子炉実験所助教)
演題:「あらゆる核利用は、いわれなき犠牲をしわ寄せする」
- 小出さんを囲んでのラウンドテーブル
クマール・スンダラム(インド核軍縮平和連合CNDP)
アナトリー・チュマク(ウクライナ国立放射線医学研究センター副所長)
豊永恵三郎(韓国の原爆被害者を救援する市民の会)

26

13:30～16:00 セッション3 核兵器禁止・劣化ウラン兵器禁止キャンペーン

- スピーカー
メアリー・ディクソン(米ダウン・ウィンダース)
川崎哲(ピースボート共同代表)
ティルマン・ラフ(ICAN議長=創始者/IPPNW共同代表)
大久保賢一(日本反核法律家協会事務局長)
マンフレート・モーア(ICBUW運営委員/独弁護士)

27

16:15～17:45 セッション4 反核利用キャンペーン(ウラン採掘・原発・核燃料サイクル)

- スピーカー
武藤類子(福島原発告訴団団長)
クマール・スンダラム(インド核軍縮平和連合CNDP)
シュリプラカッシュ(インド・ジャドウゴダ/映像ドキュメンタリー『ブッダの嘆き』監督)

28

**18:00～19:00 映像ドキュメンタリー
上映会(国際会議場・ヒマワリ)**

- 題名:「インド・アメリカのウラン鉱山被害」初公開
解説:シュリプラカッシュ監督

29

**9:30～14:30 セッション5 今後の
核被害者ネットワークをどう築いて
いくか 全体討議**

30

14:30～15:00 閉会セッション

- 「世界核被害者フォーラム広島宣言・世界核被害者の権利憲章要綱草案」提案／採択
- 「フクシマを忘れない、繰り返させない特別アピール」提案／採択

31

世界核被害者フォーラム広島宣言・世界核被害者の権利憲章要綱草案

2015、11、23採択

32

世界核被害者の権利憲章要綱草案

• [I]核被害者の権利の基礎

- 1 自然界はすべての生命の基礎であり、人類を構成し文明を享受するすべて人間は個人として生命、身体、精神および生活に関する生来の平等な権利を有する。
- 2 何人も恐怖と欠乏から免れ、平和で健康で安全に生きる環境への権利を有する。
- 3 人類の各世代は、あらゆる生物の将来世代の利益を損なわないよう、持続可能な社会を享受する権利がある。
- 4 国際連合憲章でうたう本来的な人間の尊厳と人民の自決権、世界人権宣言、国際人権規約その他の国際人権文書及び先住民族の権利の宣言など、これらの国際実定法が定める生命、健康と生存に関する諸権利、並びに生成途上にある人類の法の内容をなすべき慣習国際法の原則が存在する。

33

[II]権利

(1)核時代に生きる何人も、現在と将来の核被害を防ぐために以下のことを求める権利を有する。

- 1 自然放射線・医療用放射線以外の放射線被曝を受けないこと。
- 2 被曝労働を強制しないこと。被曝労働が回避できない場合には、最小化すること。
- 3 医療被曝を必要最小限に留めること。
- 4 放射線被曝の危険性について、正確な情報を学校教育、社会教育を通して提供すること。情報には放射線被曝にリスクのないレベルはなく、とくに子どもや女性は被曝に対する感受性が高いことを含む。

34

(2)核被害者は次のことを求める権利を有する。

- 5 人格権、健康権を含むあらゆる人権及び基本的自由に対する核被害者の国内法上の権利を認めること
- 6 過去、現在と将来の被ばく(被爆・被曝)による健康影響に対する持続的な健康診断と最善の医療の提供を自己負担なく受けること。これには、被ばく(被爆・被曝)2世、3世および将来世代も含む。
- 7 核利用の結果もたらされたすべての生命と健康、経済、精神、文化への被害について、加害者による謝罪と補償を求めること。
- 8 放射能で汚染された土地、住居、地域社会の環境の回復および地域(民族)文化の再生を求めること。
- 9 被ばく(被爆・被曝)状況について、加害者から独立した信頼できる科学的な調査と完全な情報公開を求め、この調査と個人情報に配慮しつつ情報管理とに被害者自身が参加すること。
- 10 放射能汚染地への帰還を強制されないこと。被曝地から避難するか被曝地に留まるかの選択の自由が保障されること、いずれの選択をした場合でも、できる限り被曝を避け、健康を守り、生活を維持、再建できる支援を受けること。
- 11 放射能汚染で健康が害される環境での労働を拒否すること、拒否後も不利益取扱を受けないこと。

35